

住まいは壁と屋根が大切です！

見た目にだけでなく、適材適所を考えて選ぶ。

単に屋根瓦や外壁といっても、性能はそれぞれに異なり、住んでいる気候風土に合わせて選ぶ必要があります。それに、色や風合いもさまざま。家の印象を決めてしまうので、いろいろと悩んでしまう方も多いはず。屋根瓦や外壁をリフォームするなら、適材適所をふまえて選びましょう。

外観をリフレッシュ！



屋根

屋根瓦の素材は、大きく分けて4種類に分けられます。

外観のイメージにも影響する屋根瓦。一般的な戸建て住宅で用いられる屋根瓦の素材は、大きく分けて4種類あります。それぞれの特長をご紹介します。

独特の風合いが魅力

粘土系

プレス成型した瓦形の素地に釉薬を施した、陶器瓦とも呼ばれる「釉薬瓦」と、いぶし瓦・素焼瓦・練込瓦・窯変瓦に分類される「無釉」があります。味わいを重ねる独特の風合いが魅力です。



軽量で、形や色が豊富

スレート系

スレートとは、瓦とは違い薄い板状のもの。退色せず、黒く艶のある自然の色や重厚感が魅力の「天然スレート」と、軽量で施工しやすく、形や色が豊富に揃っている安価な「彩色スレート」があります。



屋根にどっしりとした印象

セメント系

セメントと細骨材(砂)のモルタルを原料にしたセメント瓦。スレート系よりも材料が厚く、屋根にどっしりとした印象をもたらせます。和型から平型まであるほか、洋風住宅向きのコングリート系もあります。



軽量で地震に強い

金属系

平葺きタイプや金属成形瓦など、機能・デザインともに豊富な鋼板は、軽量で地震に強く、水分を吸収しません。また、アルミ合金製で裏側に断熱材を一体化させる事で、優れた断熱効果があります。



屋根のリフォームサインがでていませんか？

屋根の役割は、雨風をしのぎ、災害から私たちの暮らしを守ることです。屋根は日々、自然と戦っているため、当然のことながら年数を経るごとに劣化していきます。屋根にもメンテナンスすなわちリフォームが必要です。そのタイミングは？

屋根に雑草が生えてきた！



屋根に枯れ葉が溜まっている！



棟の瓦がズレている！



屋根材にコケが生えてきた！



屋根材の色あせが目立つ！



外壁

愛する住まいをそろそろいたわってあげましょう。

住まいの寿命にも関わるとともに、紫外線や風雨、雪、騒音、延焼などから住まいを守ってくれる外壁材。多種多様な性能の細かなチェックが大切です。

サイディング

タイル風、石積み風、板張り風と表情の多彩さが魅力。窯業系と金属系、木質系の3つがあって耐熱性や断熱性にも優れています。品質が均一で比較的低価格なうえに施工性も高く、リフォームに最適です。



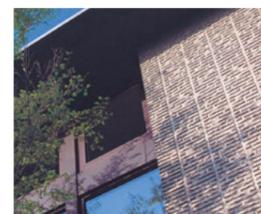
塗り壁・モルタル

仕上げの方法によって多様な模様を施せ、独特の風合いや温かみが魅力。健康住宅志向や環境配慮から、吸放湿効果やカビ・細菌の発生を抑える漆喰や、調湿・保湿性に優れた珪藻土などの自然素材の塗り壁も増えています。



セラミック外壁

焼き物と同じようなガラス質を表面に施すことで高い親水性を発揮。汚れは雨水で流れ、耐熱性、耐水性、耐火性にも優れています。また、色褪せや劣化の心配もなく、メンテナンスはほとんど不要です。



タイル・レンガ

タイルの中でも、水分を吸収しにくい磁器質、石器質は、耐候性、耐久性、耐火性に優れています。また、レンガは、欧米邸宅を思わせる仕上がりに加え、軽量化や形状に工夫した施工性の高いものもあります。



見落とししていませんか？放っておいていませんか？



水が溢れている

雨樋の破損

とゆの傷みは、ありませんか？

メンテナンスとなると、なかなかやっかいなのが「とゆ」。つまり雨樋です。放っておくと、落ち葉やゴミが詰ったり、古くなってキズや傷みを生じていたりすると、それらが原因で水漏れを引き起こし、外壁まで汚してしまいます。かといって、場所が場所だけに、マメに掃除をするにしても危険がつきまといまいます。ダイドーでは、「とゆ」のリフォームも対応しています。